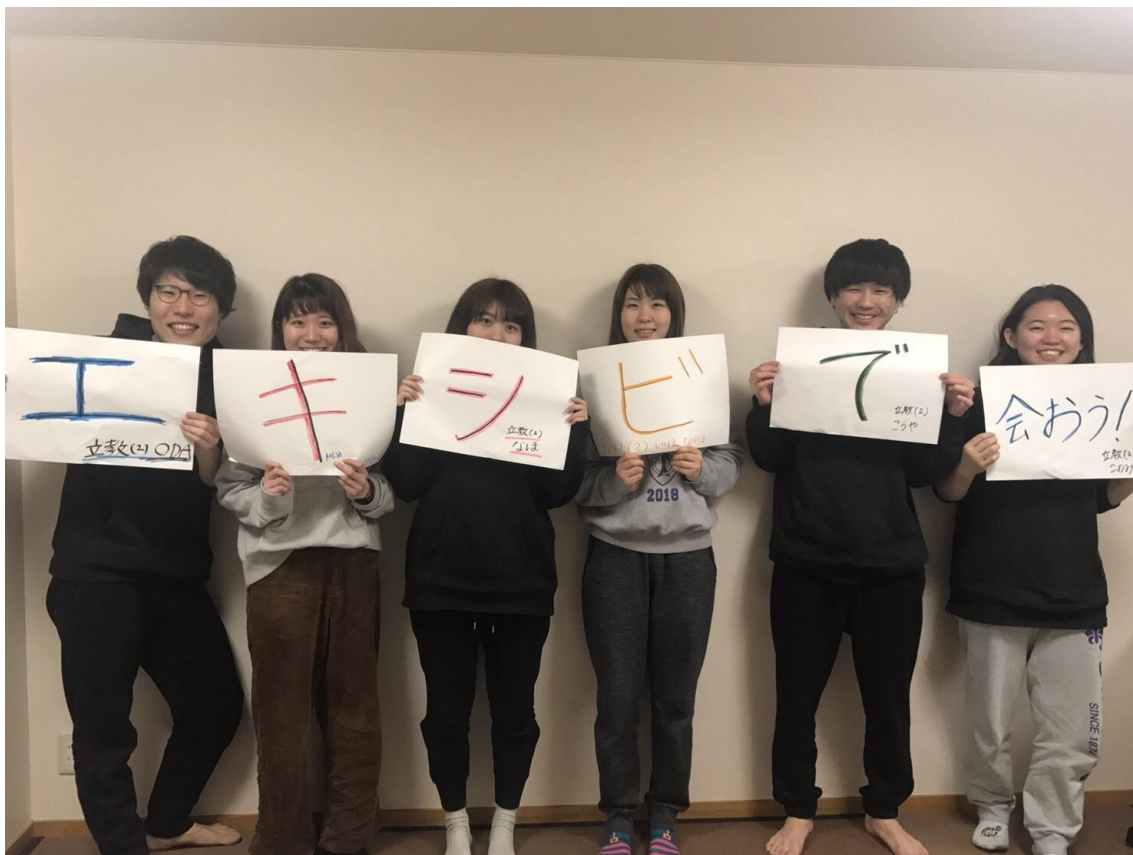


【春の大セミナー 二カンテーブル3つ目総評】



・テーブルメンバー

- 1位 ODA (立教2)
- 2位 石川 (明学2)
- 3位 北村 (立教2)
- 4位 上田 (立教2)
- 5位 成田 (立教2)
- 6位 入江 (フェリス2)

・ジャッジ

伊東 哲史 (早稲田4) 能戸 七栄 (立教4)

・議論の流れ（文責：伊東 哲史）

1. Narrowing からオピメ決め

まず複数人により Narrowing が読まれ、大合唱が起こるかと思ったら入江が勝ち取った。ODA による do our best という新たな task を追加する謎の S が飛び出し、その場が凍りついたところで始まった。

ODA と石川がオピニオンプレゼンターとして立候補した。いくつか Q があり、ODA が選ばれた。Q を受け付けた際に全員で手をあげて全員で譲り合う姿はダチョウ倶楽部を見ているようでなんとも微笑ましかった。

感想：オピメを決めるのに時間をかけなかったのは素晴らしかった。三時間の議論のうち、一番無駄な時間はオピメ決めだと思う。しかし、無駄だからといって意味のない Q をしていい場所ではない。コンパリソンアイデアやオピメとしてのコアを引き出す、また潰すという Q をしてほしい。この点に関してしっかりとできていたのは石川だけであったように思う。上手いディスカッサントはオピメ決めて論点を全て引き出し、整理する。本年度の春の大セミナーでは論点整理ができていた人物は私が見たテーブルではいなかった。このようなディスカッサントがアッセンブリーでは現れることを期待している。

2. ASQ

Problem と Harm では Q が数個あった。特に停滞することもなく SOH に進む。SOH では上田、入江が warrant に反論を提示した。上田の反論は ODA の後で話そうという S で流れ、入江の反論は石川の C と ODA の S により議論についての同意(take consensus)を得ることにより、SOH が証明された。そして Cause で、Mandate と SQ の違いが確認されたところで休憩となった。

感想：ASQ で行うべき Q は何かということを今一度考えてほしい。Q の effect を詰めていけばわかるはずだ。三時間しかない議論において全ての議論を話せるわけがない。でもその中でも絶対話すアイデアはあるはずだ。それはオピニオンプレゼンターのアイデアだ。そこに ASQ で突っ込んでほしかった。私が二年生の時は Q で喋ってばかりだと怒られた。しかし、話していた内容は意味のない話ではなく、オピメの意見の穴を突くものだったと思っている。三年でそ

れがアイデアとして提示できるようになって強くなれたと思う。ASQで行うQを一つ一つ見直してほしい。そしてアッセンブリーではより質の高い議論となることを期待している。また、SOHでの議論について言及しておこう。SOHでやるべきことはa/I/1のマイナスを確認することではない。なぜ先人はSOHを作ったのか考えてみてほしい。上田と入江のアイデアは流されたが再び話されることはなかった。なぜアーギュメンターは反論を提示するのかという点も合わせて考えてみてほしい。

3. NFC

3-1 NFCの順番決め

オピニオンプレゼンター以外全員が反論を提示しようとした。そこでODAがじゃんけんで議論の順番を決めようと言い出す。アイデアを見てから順番に行おうと石川が反論を試みるも結局じゃんけんによりNFCのアイデアを話す順番を決めることになった。死闘のじゃんけんの結果、一番を勝ち取ったのは石川だった。石川のアイデアから話すこととなった。

感想：結果から見ると石川のアイデアで終わってしまったのでじゃんけんは有効に思う。しかし、残り一時間半あったのだから順番にやってもよかったと思う。普通の議論なら全員のアイデアを検証するのに十分な時間はあつただろう。もしくはいち早くコンパリに行くためにアーギュまとめて検証してもよかったと思う。かの有名なひろはしくんはNFCアーギュを5個同時に料理したらしい。二カンテーブルでランクを争うレベルのディスカッサントならNFCでどれだけ時間を費やしても結論に繋がらないことは理解してほしい。また、石川が具体的にどのように順番を決めるのかは提示されていなかったものでわからないが、アイデアを見てから考えるというのはとても興味深い考えである。私も現役時代は全員まずアイデアを見せて、似ているアイデアは組み合わせで時間を削るということをしていた。(本当の目的はアーギュメンターが提示したそれぞれのアイデアをどのように料理するのかを考えることだったが笑)じゃんけんが悪い方法であると非難しているわけではないが、毎度じゃんけんばかりしていていいのだろうか。ディスカッションなのだから運ではなく、ロジカルな方法も考えてみてほしい。(私は運により去年涙を流しているが、、、笑)

3-2 石川のアイディア

石川は今回の議論は結論が取れないので **NFC** が立たないと反論していた。**ODA** や北村の **QC** により、石川が **S** を打つことになる。石川の **S** はストレス耐性の大きさという観点で生徒と先生を比べて結論を得ようということであった。しかし、理解がなされずリピカン合戦が始まり、被せ合いの動物園というよりは、皆同じことを言う幼稚園の園児のようであった。見ていて微笑ましいが、山梨でわざわざやることなのだろうか。その後、残り時間が少なくなってきたところで今日の結論をどうするかという議論が始まった。**NFC or not** という結論か **t/plan or not** という結論のどちらがいいのかなど適宜投票がありながら結局石川のアイディアは **DA** で話すことになり、次のアイディアを検証しようとしたところで時間が来た。

感想：結論ってなんだろう。**T/plan or not** だと **Narrowing** で言っていたと思う。**NFC** かどうかも一つの結論だと思うが、それを”日本政府”として発表できるものなのか考えてほしい。私の 5 つ上のファイナリストが言っていたことを引用しよう。「日本政府と名乗っているのだから、結論を新聞記事にして報じることができるかと考えてみてほしい。**NFC** で終わったということは、『現状こんな深刻な問題があるけど日本政府として助けるべきか迷っています！ただ議論する時間ないので問題を置いておくことにしました！』ってこと。こんな日本政府恥ずかしくないですか？」今回の三時間の議論はどうだったのだろうか。三時間で得られた結論は何もなかった。今まで春セミ 5 回行なってきて結論が得られたテーブルはあっただろうか？ほとんどないだろう。私も人のことを言えるような優れたディスカッサントではない。しかし結論に対する意識、勝つ意識はあったと思う。なぜ私たちは「日本政府」と名乗って議論しているのかをもう一度考えて、自分なりの答えを導き出してほしい。

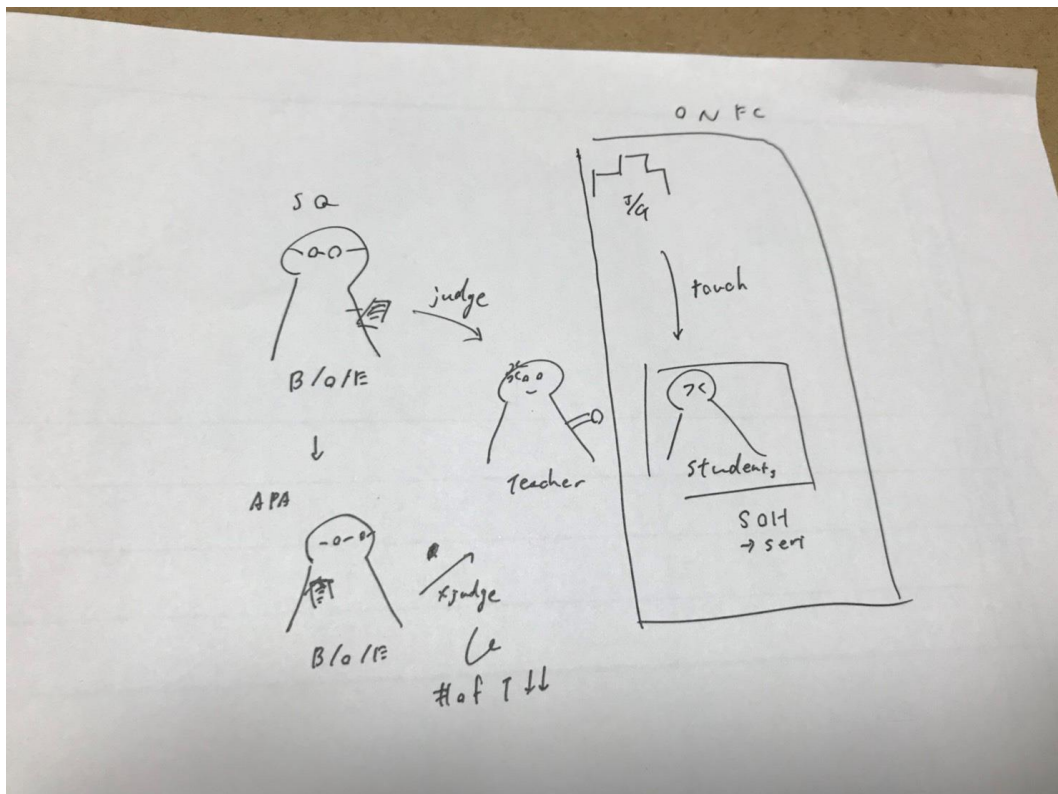
また、リピカン合戦について一言言及したい。どうして私の言っていることがあなたにわからないのかと思う場面があると思う。その際に人を煽るのではなく、優しく接してあげる術を身につけてほしい。言っていることがわからないなら一つ一つわかるポイントを確認してあげること。**One by one** の精神で。テーブルメンバーを置いていくのは絶対にやってはいけないし、煽るのも良くない。私は三年で気がついた。これから気をつければ良い。アッセンは一位しかランクが取れないのだから尚更気をつけてほしいところである。

4. 補遺(ガッツのぼやき)

お疲れ様でした。俺が小セミでやった二カンと違ってみんな落ち着いて喋れていてよかったと思います。これからアッセンまでに気をつけてほしいことを伝えたいと思います。

4-1 絵チャートを使うこと

チャートってなんのためにあるのかというと視覚的にわかりやすくして、テーブルにアイデアを浸透させやすくするいわゆる補助だよ。それが補助になっていない場面が今回の春セミでは多々ありました。以下に俺が過去にリフレで送った絵を見せます。なんの場面か詳しく書かないけど、見たら何が起きているのかわかると思います。



高校の時に美術の先生に雑すぎると笑われたピカソのような俺の絵でも言いたいことは伝わると思う。絶対書けとは言わないけど、チャートは文字を書くんじゃなくて絵を描くことを意識してみてください。

4-2 Task 流し

「Task 流し私嫌いなんです。」という言葉をよく聞きます。じゃ、あなたがやっている a/l/1 は task 流しなのでしょうか。Task 流しが嫌いならコンテンツで切ってくださいって思います。Task 流しが嫌いになる理由は二つあると思います。

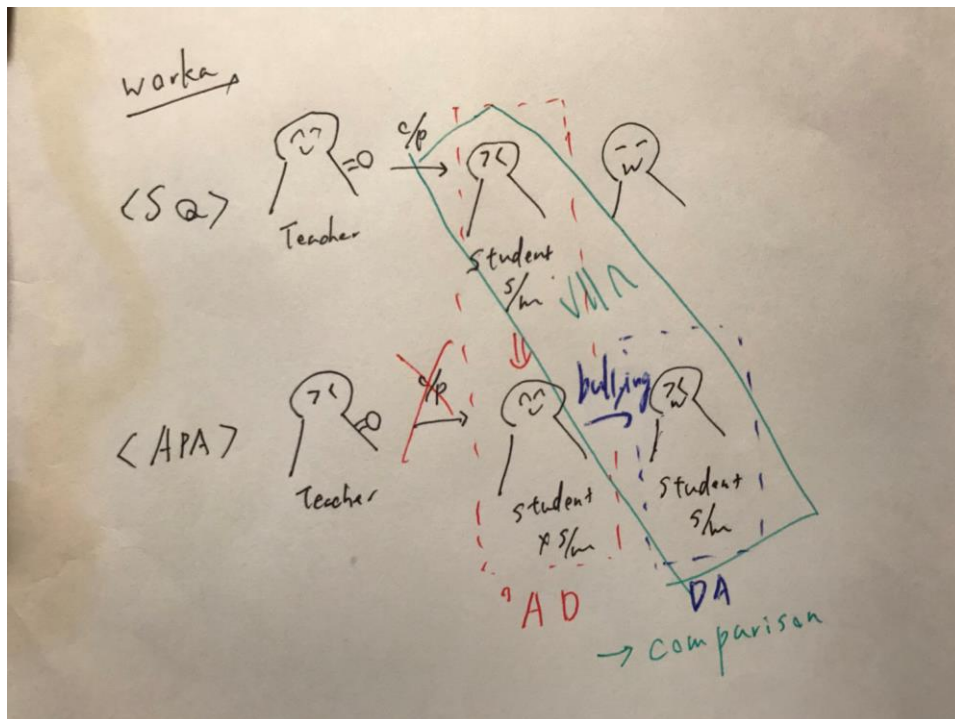
1、Task の意味をお互いに十分理解していないから。

2、コンテンツを話していないように感じるから。

1に関しては「暗黙の了解」が大きいと思います。「暗黙の了解」である task を説明できますか？NFC の task は実は誰も決めていません。定義していないのです。しかし、task が達成されたからとか言って次に進もうとする。定義もしていなくて誰もわからない task が達成されたからと言われたから次に進もうって納得できるわけありません。ただのジャイアンです。だからなぜ NFC を先人が作ったのか(作った人 E ランカーらしいです w)、NFC で暗黙の了解である task が達成できたらなぜ次に進めるのか、などしっかり考えてみてください。ランカーでも答えられない人が多いと思います。

2に関してはどこがどのように indirect であるのかななどを説明していないがために起こります。(indirect も暗黙の了解だ！) まずは相手のアイディアを理解してあげることが重要です。理解しただけじゃダメです。綺麗にチャートに書かなきゃダメです。ここで成果を発揮するのが絵チャート。絵チャートで全部まとめられて、どこが NFC の task なのかとかを説明してあげられれば一発で流れます。どうやって書けばいいのかとか聞きたかったら連絡ください。

それでも流れない場合は二項対立を作ること意識してみてください。DA じゃんお前の idea って言っても相手がどのような vision で DA に落ちるのか、コンパリできるのかわからないと DA に落ちません。だからしっかりどことどこが二項対立になっているのかを考えてください。絵の中で二項対立が作れたらベストかな。例としては下のやつ。人それぞれ好みはあると思うが、わかりやすいと思う。コンテンツ感出ているっしょ笑 こんなチャートをほとんど見たことがないです。今回のテーブルだとリコピンが SOH でやってくれていたかな。アッセンではこういうチャートで task を説明することを意識できると上に上がれると思う！



4-3 エビデンスを調べよう

今回の春セミでエビデンスあまり出ていなかったように感じる。例えば体罰がなくなるといじめが増えるなんていうアーギュ、文科省調べれば切れるエビデンス載っているよ。去年の春セミ期でエビデンス出して勝ってきたことは何度もある。なんならアッセンでもエビデンスでアーギュ切っているし持っていて損することはないと思う。特におすすめしたいサイトは **News Picks** かな。いろんな社会問題に対して専門家から一般人までいろんな人が意見を言っているサイトがある。ここの情報を見てエビデンスとなりうるニュースを探したり、反論のタネになるアイデアを探したりしていた。読み物としても面白いのでぜひ読んでくださいな！

4-4 あだ名

これはちょっとどうでもいいけど、あだ名はあった方がいいです。ぶっちゃけ次会った時にあだ名じゃないと名前覚えてないと思う。インパクト大事。いい意味でも悪い意味でも有名になります。オーソリ上がります(実体験)。ガンツを超えるあだ名に未だ会っていないのが残念。

ここまで偉そうに喋ってきたわけですが、アッセンと来年のディスカッションにはめっちゃくちゃ期待しています。俺が取れなかった二年生甲ランカーをしつかり取ってきてください。三年のレベルほんとに高くないので二年生ファイナリスト狙えるよ。まじで。質問だったりプレパだったりいつでも呼んでください。需要があれば飛んで行きます。来年はエキシビで会えるといいね～

2017 年度早稲田大学英語部会計兼ディスカッションスタッフ

伊東 哲史（あだ名：ガンツ）

連絡先

Line: ito3104baseball

Mail: satoshi.t.ito@gmail.com

個人総評

文責 能戸七栄（立教4）

1) 順位と選定理由

第1位 小田（立教2）

オピニオンプレゼンターとしてほぼ全ての話に介入し、彼の発言によって議論が常に進んでいたため1位とした。春セミ最後のテーブルということもあり、他人のもつアイデアに対して理解しようとする姿勢が常にあったことやそのアイデアを適切な場所でどう話していくかを考えテーブルのためになる介入が最終的に一番多かった。しかし、2カンという全員が勢いを持つテーブルにおいて限られた時間の中で結論を得るためには、オピニオンプレゼンターとしてある程度、論点の取捨選択や提示した最適なエリアにできるだけ早く持っていく力が必要不可欠である。その点に関してはまだ成長の余地があると感じるため、今後は「進捗」の面での貢献を行ってほしい。一番に望んでいる結果ではなかったかもしれないが、最後まで諦めずに与えられた環境の中で結果を残したことは自信を持ってください。おめでとう！

第2位 石川（明学2）

今回のテーブルで最大の論点になった NFC でのアーギュメントを提示したことを評価した。テーブルの中でコンクルを得ることに對して一番意識を持っていたはずだが、アイデアのネセや話し方をテーブルメンバーに提示しきれていなかった点が多くあったため残念だった。今後は、落ち着いたプレゼンと自身のアイデアがどう議論全体、そしてコンクルに結び付けられるかを考えていってほしい。

* 2位と3位は非常に僅差なため1度の介入で順位が前後したことも意識してほしい

第3位 北村（立教2）

自身のアイデアは時間の都合上提示できなかったものの、質の高いカンファメーションを行い、テーブルを落ち着かせる役割を担っていた点を評価した。彼女の発言は今回のテーブルメンバーの中で一番マクロなものであり有効なものだったが、そこから行き詰った議論を開くサジェスションが自身で打てなかったため、今後は最後まで自身の力で前に進める力をつけてほしい。

第4位 上田（立教2）

比較を行いたい対象が明確であった SOH でのアイデアを提示した点を評価した。しかし、他人の話に対する介入が少なかったため残念だった。不運にも中盤からの体調不良で介入が限定的になってしまったが、短期間での彼の躍進には目を見張るものがある。今後は2カンに入った経験に満足せず更なる高みを目指してほしい。

第5位 成田（立教2）

相手の話を理解しようとする姿勢と時折見せる効果的なカンファメーションを評価した。介入量の差で上位に及ばずこの順位となったが、議論の理解度や要所で行う質問やカンファメーションの貢献度は高かったため今後は他人の話にコンスタントに介入し自身のアイデアも提示して行ってほしい。

第6位 入江（フェリス2）

アイデアを提示し、持ち前の笑顔のプレゼンテーションが輝いていた点を評価した。しかし、他人への介入が非常に限定的になってしまったためこの順位になった。話が理解できない時でも、今までテーブルに出た話をいったんまとめる（テーブルメンバーに確認しながら）カンファメーションなど、できることはあるはずなので介入をあきらめずに、アイデア提示以外の役割を見つけて行ってほしい。

2) 最後にひとこと

皆さん春セミお疲れさまでした！

3つ目の2カンテーブルをジャッジした立教4年の能戸です。

自分が 2 年前にいたテーブルを担当して、それぞれが最後まで全力で楽しそうに議論している様子が見れてとても感動しました。5 テーブル目で疲れがたまっている中で相手を尊重しながら議論できていた点は、2 年生だけでなく春セミに参加するすべての人も見習うべきだと感じました。

ちょうど春セミが終了して 1 か月ほど経ちます。あの時悔しくて涙が止まらなかった人の中でどれだけの人があの“悔しさのまま”覚えているでしょう。悔しさって意外と気が付いたら忘れちゃうもんです。でも、だからこそ、その悔しさを原動力に努力し続けられる人が勝つのだと思います。負けず嫌いが勝つところ、君たちが証明してください。

この春セミで結果を残せた人は、そんな想いを持った人たちが多くいることを忘れずに。今後も自分自身に限界を決めずに突っ走ってください。

偉そうなこと書いたけど、私はみんなのおかげでこの春セミ期間、それぞれが苦しみながらも努力する姿を見れてまたひとつ「ディスをやってきてよかった理由」を見つけられました。ありがとう。今後もみんなの思うなりたい自分に一歩でも近づけるように応援しています。